

第三者意見

一般社団法人CSRレビューフォーラム



一般社団法人CSRレビューフォーラム
統括レビューアー
山口 智彦 様



一般財団法人CSOネットワーク
事務局長・理事
黒田 かおり 様



サステナビリティ消費者会議
代表
古谷 由紀子 様



公益社団法人
アムネスティ・インターナショナル日本
ファンデレイジング部門
副ディレクター
土井 陽子 様

2017年7月11日、CSR・環境部の皆さまと、主に次の2点について議論し、その後CSR報告書の原稿を拝見しました。以下、議論での要点を含めた意見を申し上げます。

1. 本業での社会課題解決とその開示
2. CSR調達の進捗

1. 報告書を拝見しての概括意見

前半では、本業による社会課題解決の方向性について、とくに特集1で自社が目指す方向が世界の目標と同一であることを明確にしていること、後半ではマネジメントの側面を報告していることが、社会への宣言と同時に社内への発信として、優れた報告書と思われます。

また具体事業については、11の重点テーマを定め、このテーマで章立てしており、読者にとってわかりやすい構成になっていると思われます。とくに活動の実態については、現在、企業への共通した重要課題として要請の高いCSR調達についても進展が窺えるものになっています。

2. 本業による社会課題解決について

サステナビリティ実現の道筋としてSDGsを自社の目標にすることを社内外で明示されたことは、今後のDNPグループの指針となり、拠り所となるものと思われます。

しかし、これを実現するために選んだ事業活動について、現在どの程度実践され、課題はどこにあるのかなどの寄与度を含めた現状を示すことが情報開示として重要になってくると思われます。

昨年もし申し上げましたように「世の中の本物の課題とはどういうものか」「わが社ができることはなにか」「どうやって事業を作っていくか」などの議論を各事業部、多数の従業員の参加で行わなければ、サステナビリティ実現が事業のなかで実現されることは困難です。来年の報告書でこれらの議論の報告を期待します。

今回、特集2で取り上げられた4つの事例は、いずれも「知とコミュニケーション」に関わる事業ですが、社会の知とコミュニケーションに関わるDNPグループの事業が数多くあるなか、社会の課題をより直接的に解決している事業はほかにもあるのではないかと印象を持ちました。

社会課題解決の観点で社内公募するなどして、ここに取り上げる事業を選んで良いのではないのでしょうか。

また、SDGsのそれぞれのゴールはさまざまなステークホルダーの人権とつながっています。CSR調達など、DNPグループが取り組んでいる人権尊重のための取り組みとSDGsを念頭に置いた社会課題解決事業の関係を明示しつつ両者を並行して進められ、関連付けて報告されていくことを期待します。

3. CSR調達について

社会環境課題は調達資材の源流部分に集中しています。今回、存在する課題を直視した調達ガイドラインに改定されたことを高く評価します。

今後、DNPグループが、調達先をいかに調査し、課題を解決していくかが、困難ではあっても求められていきます。先日の対話の場では、調査を実施するにあたって、調査対象とするサプライヤーを、調達の量で選ぶよりも、地域や業種・業態、あるいは社会・環境面を見た時に高リスクであり、課題があると思われるところを選び、選んだ対象については細やかに対話し調査していただくことが課題解決には有効ではないかとお願いしたのもその趣旨からです。

調達部署の方々にとっては大きな負担になり、業務の再構成が必要になると思われるかもしれませんが、調達部署とCSR部署との内部の協働による進展を期待します。

4. DNPグループの環境活動について

別途発行している環境報告書によると、DNPグループの環境負荷低減活動は大変優れています。熟練したPDCAのマネジメントシステムにより着実に負荷を低減しています。昨年の環境報告書におけるScope3の報告では、バリューチェーン全体で見た温室効果ガスの63%がDNPグループの上流で排出されていることを明らかにしており、実態把握のためにとられた労にまず敬意を表します。

しかし、環境負荷の低減活動については明らかになった実態をもとに重点配分をしていく必要があります。環境負荷と社会負荷は連動するものであり、Scope3のデータにもとづく効果的な取り組みを期待します。

CSR・環境委員長 メッセージ



CSR・環境委員長
常務取締役
井上 寛

私は、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を受けて、DNPとしてどのような貢献をしていくことができるのかを考えた時に、あらためて「社会に対して価値を提供する」「価値創造のプロセスを公正・公平に遂行する」「説明責任を果たし、透明性の高い企業になる」という、果たすべき3つの責任を着実に果たしていくことが重要だと感じました。DNPグループ全体でSDGs等が示しているさまざまな社会の課題に向き合い、その解決に貢献する事業や製品・サービスを創出していくと同時に、これらを生み出すプロセスで社会に負の影響をおよぼすことのないよう努めていきたいと考えています。

今年のCSR報告書では、こうした視点を意識し、創業からの140年にわたるDNPの価値提供の歴史を振り返りながら、そこで培った私たちの強みをどのように活かして、これからの未来に向けて価値を届けていこうと考えているのか、その一端を前半の

「未来のあたりまえをつくる。」で紹介するとともに、後半ではどのような課題意識で事業を進めているのかを事例を挙げながら報告しています。

私たちのこうした取り組みについて、CSRレビューフォーラムの皆様から、ダイアログの場や第三者意見書を通じて貴重なご意見をいただきました。ここにあらためて御礼申し上げます。事業面においては、世界の課題解決の目標と私たちの事業の方向性との間にぶれがないことを明確にしていること、また、事業プロセス面においても、存在する社会課題を直視した原材料調達や気候変動への取り組みなどに対して評価をいただきました。また、事業を中心に深刻な社会の課題に対してもさらに力を発揮してほしい、とのご提言をいただきました。皆様からのご意見をはじめ、ステークホルダーの声を真摯に受け止め、これからも社会に貢献していくことができる企業を目指していきます。

「DNPグループ CSR報告書2017」の和文版冊子は、環境やユニバーサルデザインに配慮した印刷物として以下のマークが付与されています。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



こちらの報告書PDFは、認証紙に印刷された認証印刷物のデータを使用して制作しました。



バイオマス
使用部材: 印刷インキ
No.090010



本報告書を印刷・製本する際の電力(1,800kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



カラーユニバーサルデザイン対応
本報告書は、より多くの人にとってわかりやすいよう色づかいに配慮したデザインであると、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構によって認証されました。



このCSR報告書はカーボンフットプリントを算定・表示し、CO₂排出量をオフセットしています。

このCSR報告書は、原材料調達から廃棄・リサイクルまで製品のライフサイクル全体で発生する温室効果ガスをCO₂量に換算した「カーボンフットプリント(CFP)」マークを取得しています。また、CFPによって算定したCO₂排出量(1部あたり740g)の全部をCO₂排出権(クレジット)により実質的にゼロにする「カーボン・オフセット」を行っており、どんぐりマークを取得しています。